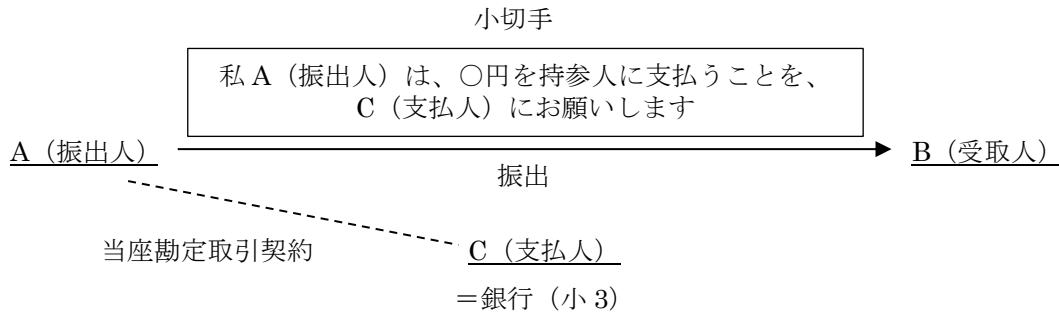


## 13.小切手と為替手形

### 13-1.小切手の意義と機能

#### (1)意義（小1・3参照）

振出人が支払人である銀行に宛てて、小切手の正当な所持人に対して、その請求の日に小切手に記載された金額（小切手金額）を支払うべきことを委託する証券（支払委託証券）

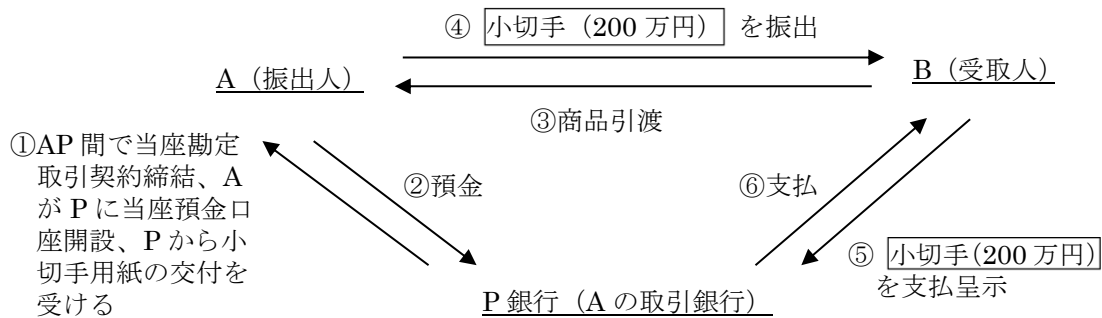


\*流通する合計金額・枚数では約束手形よりも多い（1-2(1)）

#### (2)機能

##### 事例 13-a 小切手による支払

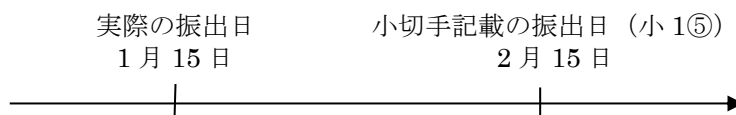
卸売商 A はメーカー B から商品を仕入れることになった。A は代金 200 万円をすぐに支払うつもりだが、現金を渡すのではなく、銀行にお金を預けておいて、そこから支払が行われるようにしたい。



(3)小切手の特徴

①一覧払（小 28 I）・支払呈示期間（小 29 I）

\*先日付小切手（小 28 II）



②支払人は振出人が当座預金を有する銀行に限定、振出人・銀行間の契約に従い振出（小 3）

③持参人払式（小 5 I ③）——権利の推定（民 520 の 14・520 の 20）

⇔約束手形（手 11 I・16 I・77 I ①参照）

④引受禁止（小 4）→禁止される理由

13-2.小切手の振出等

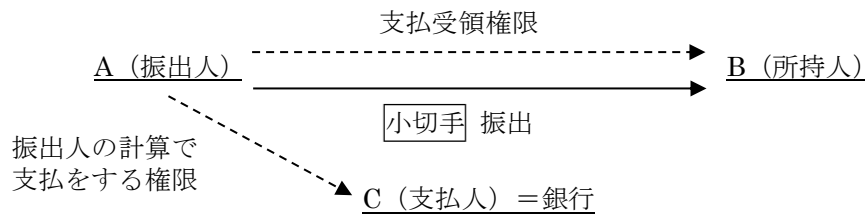
(1)振出と流通 [テキスト 19.1~19.2]

持参人払式小切手の譲渡 (民 520 の 13・520 の 20) but あまり譲渡されず

(2)支払 [テキスト 19.4]

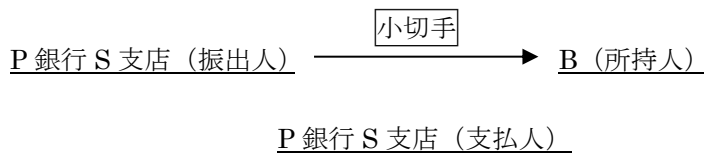
約束手形の支払

⇔ 小切手=二重授権



(3)振出人の担保責任 (小 12) ⇔ 約束手形の裏書人 (手 15 I・77 I ①) の担保責任

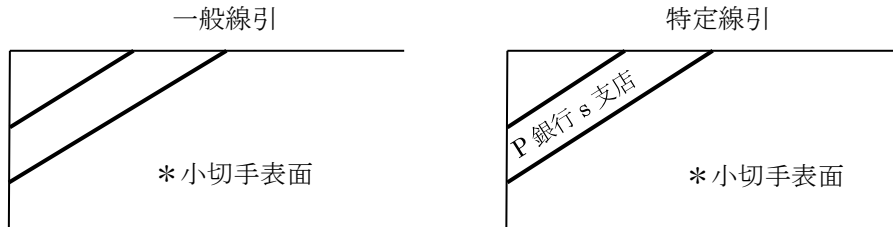
(4)預金小切手 (預手) [テキスト 19.3(3)]



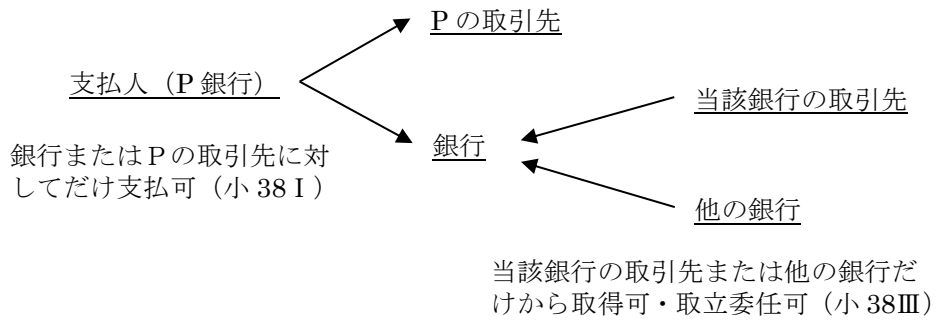
13-3.線引小切手

(1)意義 (小 37 I II)

不正取得者への支払の危険→線引

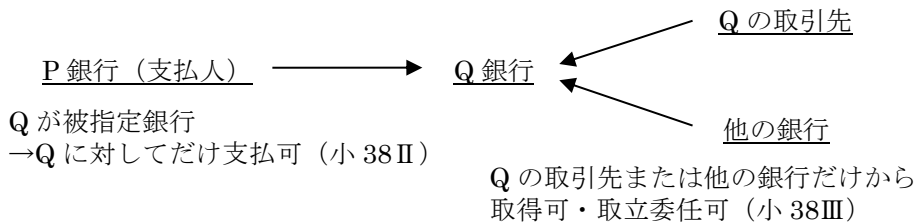


(2)一般線引 (小 37 III 前)



(3)特定線引 (小 37 III 後)

被指定銀行が支払人と異なるとき



被指定銀行が支払人自身であるとき

P 銀行（支払人）       $\longrightarrow$       P の取引先

P が被指定銀行  
→P の取引先に対してだけ支払可（小 38Ⅱ）

・「取引先」とは？

・線引の抹消、種類変更（小 37ⅣⅤ）

(4)違反の効果（小 38Ⅴ）

(5)裏判

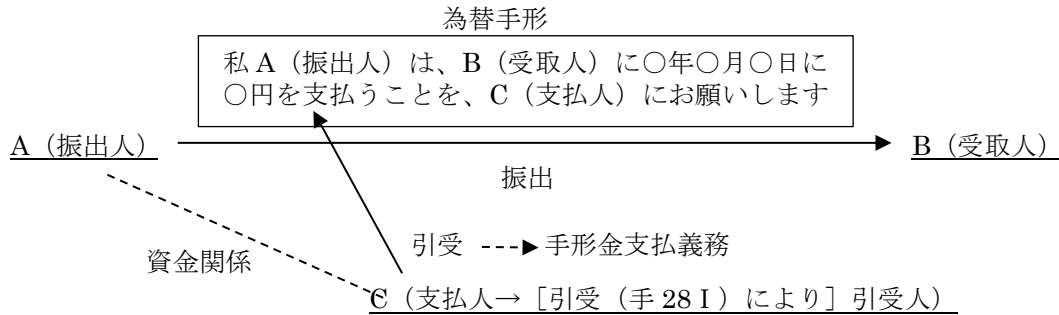
**\* 当座勘定規定（三井住友銀行）19**

- 「(1) 線引小切手が呈示された場合、その裏面に届出印の押印…があるときは、その持参人に支払うことができるものとします。
- (2) 前記(1)の取扱いをしたため、小切手法第 38 条第 5 項の規定による損害が生じても、当行はその責任を負いません。(以下略)」

13-4. 為替手形

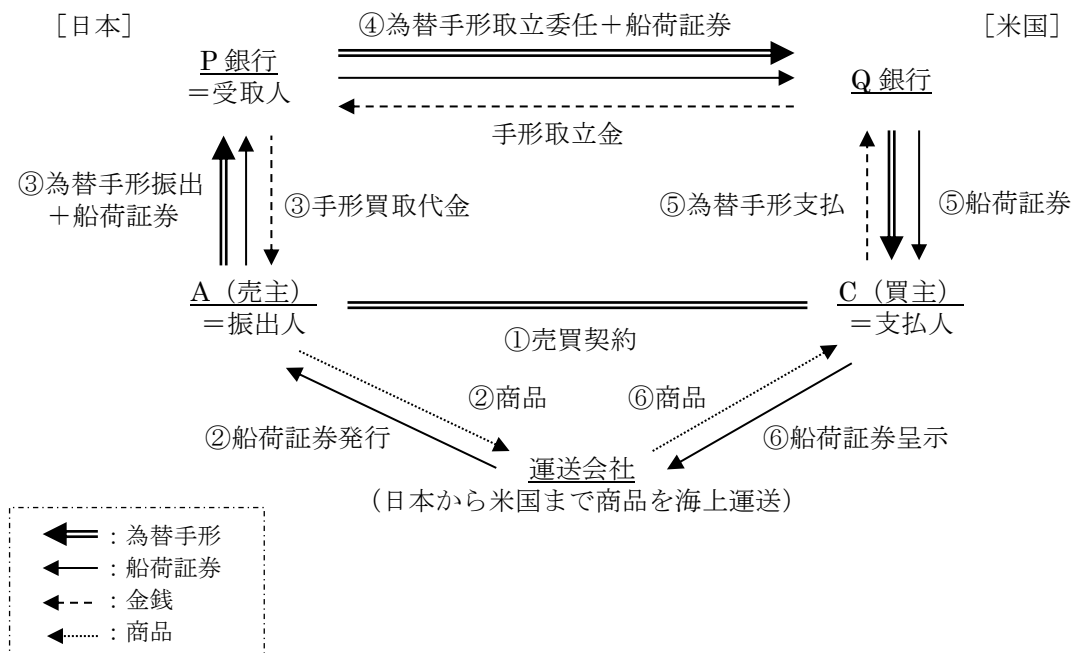
(1) 意義 (手 1)

振出人が支払人に宛てて、受取人に対して満期に手形金額を支払うべきことを委託する証券 (支払委託証券)



(2) 振出等 [テキスト 18 章]

(3) 荷為替手形 [テキスト 2.3.2] \* 詳細は「国際取引法」



\* 信用状